

事務事業名		研究会・協議会運営支援事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
教育設備	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間	
	施策名	15 学校教育の充実			
	基本事業名	02 個に応じた学力の向上		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 年度～)	
根拠法令				☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
所属	部課名	教育委員会事務局 学校教育課		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 01 04 03 事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(1～4以外)	
	課長名	市村 康之			
	係 名	管理係	電話 0192-27-3111		
	担当者	新沼 千鶴子	内線 278		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 教育関係の各種研究会・協議会へ負担金を支出し、その団体の運営を支援する事業。 具体的に負担金を支出しているのは、気仙地区中学校体育連盟、大船渡市小学校体育連盟、岩手県特別支援教育研究会、気仙地区特別支援教育研究協議会、気仙地区中学校文化連盟、大船渡地区学校図書館協議会 平成29年度は、このほか、岩手県道徳教育研究大会、岩手県社会科教育研究大会に支出 【主な業務】 ①各団体から負担金の請求書を受け取る ②各団体へ負担金を支出する。				全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量 (千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

関係する団体に負担金を支出した。

今年度計画(今年度に計画している主な活動)

前年度と同様

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

気仙地区中学校体育連盟、大船渡市小学校体育連盟、岩手県特別支援教育研究会、気仙地区特別支援教育研究協議会、気仙地区中学校文化連盟、大船渡地区学校図書館協議会、岩手県道徳教育研究大会、岩手県社会科教育研究大会

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

教育活動推進に役立ててもらう

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

児童生徒の基礎・基本及び活用に関する学力の定着を図る。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 負担金の支出回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 負担金を支出する団体数	団体
キ	
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 負担金を支出する団体数	団体
シ	
ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	1,150	1,147	1,090	863	863	863
	事業費計 (A)		千 円	1,150	1,147	1,090	863	863	863
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時 間	5	5	5	5	5	5
		人件費計 (B)	千 円	20	20	20	20	20	20
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	1,170	1,167	1,110	883	883
⑤活動指標	ア	回	6	6	8	6	6	6	
	イ								
	ウ								
⑥対象指標	カ	団体	6	6	8	6	6	6	
	キ								
	ク								
⑦成果指標	サ	団体	6	6	8	6	6	6	
	シ								
	ス								

事務事業ID	0933	事務事業名	研究会・協議会運営支援事業
--------	------	-------	---------------

5

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

各種研究会・協議会が設立されてから。(開始時期は不明)

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

平成23年度については、一部活動停止のため負担金交付をしない団体があった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

児童生徒数が減少しているため、事業対象者から、負担金額の算定単価値上げの要請があった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	各種研究会・協議会の活動が活発化することにより、多方面にわたる教育の推進と教職員の資質向上につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	各種分野にわたる教育の推進を図るために各団体の運営を支援するものであり、市単独で同様の内容の事業を実施するのは困難であるため。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	対象は各種研究会・協議会としており妥当であるが、新たな協議会等が設立された場合には、地域実情等を十分勘案のうえ、参画(負担金支出等)を検討する必要がある。教育行政を推進する観点から支援しており、意図を限定・拡充する必要はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	行政からの支援策として最も有効なのが負担金支出であることから、向上の余地はない。なお、活動内容を適時適切なものとする中で、より一層の成果向上が期待できるが、それは各団体及びその構成員の自助努力によると考える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	各種研究会・協議会の運営に支障が出る。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	負担金であり、事業費削減のためには、各種研究会・協議会の経費節減に向けた自助努力が必要である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	負担金支出に係る事務処理だけの事業であり、人件費は無い。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】	事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	教職員の資質向上と多方面にわたる教育の推進を図るものであり、特定の受益者に偏っていない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性

- ① 現状維持
 2 改革改善(縮小・統合含む)
 3 終了・廃止・休止



(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等

負担金を削減するには、各種研究会・協議会の経営感覚の高揚と経費削減に向けた自助努力が不可欠である。

(2) 改革・改善による期待成果

左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。
(終了・廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

4 課長等意見

(1) 今後の方向性

- ① 現状維持
 2 改革改善(縮小・統合含む)
 3 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

本事業は適正に進められており、今後も現状維持で実施する。